

学校教育目標

建学の精神「文武不岐」に則り、優れた知性と豊かな情操と健全な心身を持ち、
民主的な社会の発展に貢献できる自主的で創造性に富む人間の育成を目指す

目指す学校像

～活力と『ありがとう』にあふれる学校～

「教職員が使命感と誇りのもてる学校」
「生徒が自己の成長を実感できる学校」
「保護者が安心と信頼のおける学校」

目指す教師像

～使命感と誇りをもち、教育のプロとして高い授業力・指導力をもつ教師～

「『分かった』『できた』が
実感できる授業を展開する
教師」
「心に響く指導ができる教師」
「保護者から信頼される教師」

教育目標の達成

目指す生徒像

生徒信条：真理・友愛・徳性

「『これまでの自分からこれからの自分』へ新たな一歩を踏み出す生徒」
「学校生活を通して人間関係づくりを大切にする生徒」
「様々な体験を通して自信を付け、社会で活躍できる生徒」

家庭と連携・協働する学校づくり

～家庭、学校が一体となり、生徒の成長を見守る～

今年度の重点

基礎学力を定着させる
学習指導
～授業力の向上による
学習意欲の喚起
と継続～

学校生活を充実させる
生徒指導
～自己指導能力と
社会性の育成～

個々の能力・適性を
生かした進路指導
～より良い生き方・
自分らしい生き方
の実現～

建学の精神

文 武 不 岐

生徒信条

- 一、我らは、**真理**を求め技術の奥を開いて行こう。
- 一、我らは、**友愛**を結び学園の誇りを築いて行こう。
- 一、我らは、**徳性**を磨き良識の向上をはかって行こう。

昭和36年に北日本電波高校として開校し、以来、校名や学科、課程改編を経て、昭和53年に全日制普通科高校となる。そして、平成11年に開設した単位制課程では、①少人数学級での習熟度別学習 ②科目選択で授業を選べるシステム ③一人一人の進路に応じたガイダンス ④キャリアカウンセラーによる徹底した就職支援 ⑤克己心と集中力を育てる坐禅指導とこころの教育 ⑥（海外）研修旅行を通じた国際理解・国際交流教育など、特色ある教育実践を行っている。

「文と武は分けることができないものである」という「文武不岐」を建学の精神とし、生徒信条である「真理」「友愛」「徳性」の育成を目指して教育活動を行っている。

生徒会活動では、「挨拶日本一」を目指した日常の挨拶をはじめ、通学路及び海岸の清掃、季節に応じた諸行事、「富山マラソン」運営のボランティア活動等、主体的に取り組んでいる。

部活動では、剣道部が春の全国選抜大会に4回、夏の全国高校総体に6回出場、陸上競技部が110mハードルやハンマー投げで全国高校総体に出場、硬式野球部が平成29年の第99回全国高校野球選手権富山大会で準優勝、令和5年第105回大会でベスト4、令和6年には創部初の北信越大会（春季）出場と実績を残している。文化部においても、軽音楽部や写真部、将棋部、パソコン部等が楽しく活動し、なかでも美術部は、令和4年度、令和6年度に「まんが甲子園」（全国高等学校 まんが選手権大会）に出場し、令和4年度では「高知県市町村進行協会賞」を受賞した。また、山岳スキー競技において、アジアシリーズ・アジアカップに出場し、2位、3位を受賞し、オリンピック出場を目指している生徒もいる。これらの部活動は、学校全体の雰囲気をよくし、活気をもたらしている。

学校教育目標及び教育方針

(1) 学校教育目標

建学の精神「文武不岐」に則り、優れた知性と豊かな情操と健全な心身を持ち、民主的な社会の発展に貢献できる自主的で創造性に富む人間を育成する。

(2) 教育方針

- ① 個人の能力と個性を大切に学習指導
- ② 豊かな人間性と友情を培い、徳性を磨く生活指導
- ③ 己を見つめ、己に打ち克ち、集中力を育てる座禅指導と心の修養
- ④ 情報化社会に即応できる実践的情報教育
- ⑤ 国際感覚と広い視野を身に付ける国際理解・国際交流教育

(3) 学校運営方針

目指す学校像：「活力と『ありがとう』にあふれる学校」

- ① 教職員が、**使命感と誇り**のもてる学校
- ② 生徒が、**自己の成長を実感**できる学校
- ③ 保護者が、**安心と信頼**のおける学校

(4) 重点教育目標

- ① 基礎学力を定着させる学習指導→ 授業力の向上による学習意欲の喚起と継続
- ② 学校生活を充実させる生徒指導→ 自己指導能力と社会性の育成
- ③ 個々の能力・適性を生かした進路指導→ より良い生き方・自分らしい生き方の実現

学校の現状と課題

本校は、小規模校の強みを生かし、本校ならではの魅力と活力のある学校づくりに努めている。本校を選んで入学してきた生徒たちが、希望をもって学び、いろいろな場面で勇気を出して、「『これまでの自分からこれからの自分』へ新たな一歩」を踏み出し、数多くの経験を積み重ねることにより、自分に自信をもち卒業していけるよう、全教職員が一丸となってサポートしている。

本校には、進学や就職に向けて、自らの目標を達成しようと頑張り続けている生徒、基礎学力がやや乏しいが日々努力を続けている生徒、不登校を経験し本校入学を機に自分を変えようとチャレンジしている生徒等がいる。一方で、様々な事情で、入学当初「この高校で頑張ろう」というモチベーションが長続きしない生徒も見られる。こういう生徒たちを支援するために、相談部長を中心にSCやSSW、特別支援コーディネーターと連携し、全校体制で組織的な対応に努めている。また、外国籍を持つ生徒の対応が今後の課題である。

(7) アクションプラン（具体的な目標と方策）

| | |
|----|---|
| | (1) 教科指導 |
| 目標 | 「できた」を実感できる授業を展開し、学びに向かう態度を確立し、知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力の向上を図る。 |
| 方策 | 日頃の授業では生徒の能力、進路希望に合わせて、実際にやってみる機会を設けて「できた」実感できる授業を展開する。 成績が振るわない生徒、欠席が多い生徒に対して機会を広く設け、課題に取り組みせることによって、年度末での再評価、単位の不認定を減少させる。 ICT機器（電子黒板等）を効果的に活用するなど、学習意欲を喚起、継続させ、分かりやすい授業の展開を実施していく。 |
| | (2) 生徒指導 |
| 目標 | ○チーム学校による生徒指導体制の確立と、生徒の自己指導能力と社会性の育成 ・学校がチームとして機能するように、教職員同士（SC、SSW等含）はもとより、教職員と多職種の専門家等と連携・協働して生徒指導を展開する。 ・規律ある生活習慣の確立と、共感的な人間関係の育成を目指す。 ・学習規律を守らせ、自己決定の場の提供や自己存在感を感受できるようにする。 |
| 方策 | ・多様な生徒への対応は、教師一人で抱え込むのではなく、学年や生徒指導、教育相談と連携し、多角的に取り組む。 ・規律ある生活習慣の確立のために、善悪のけじめや暴力の否定について毅然とした指導を行う。また、ホームルームや学校行事を通して共感的な人間関係を育成する。 ・学習規律の確立と主体的な学習の取組や、自己存在感を実感できるよう支援する。特にスマートフォンの自己管理や時間のけじめを意識させる。 |
| | (3) 進路指導 |
| 目標 | 生徒一人一人が自分の能力や適性を理解し、自ら進路を考え、選択する進路指導を行う。 |
| 方策 | ・進路を考える機会の設定。（進路講習会、学校・企業見学会、卒業生と語る会等の実施。） ・生徒の思いや進路への考えを、本人、家庭、教員と共有する。 |
| | (4) 教育相談 |
| 目標 | 生徒や保護者の不安や悩みを共感的に受け止め、一人一人の「目指す姿」を共に考え、多様な情報と視点から分析し、粘り強くチームで問題解決に努める。また、生徒が安心して過ごせる環境づくりを目指す。 |
| 方策 | 卒業後の進路を見据えながら、一人一人に寄り添い、保護者や関係機関との連携を密にし、生徒が前向きに物事を捉えることができるような丁寧な対応をする。 |

| | |
|----|--|
| | (5) 特別活動 |
| 目標 | 学級・学年活動や学校行事、生徒会活動を通し、主体的で実践的な態度を育成するとともに、協働する体験を通して自己肯定感・自己有用感を高めるよう支援する。 |
| 方策 | <p>生徒の提案を尊重し、対話を通して実現可能な形へと共に調整する協働的な仕組みを構築する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒からの提案を実現につなげるよう、改善策をともに考え小規模でも開催して挑戦できる場を増やす。 ・安全面・運営面の観点を伝えつつ、「できない理由」だけでなく「どうすればできるか」という視点で助言する ・生徒と教員と一緒に検討する場（企画会議等）を設けたい。そのために生徒へ企画や運営のプロセスを助言する。 |
| | (6) 道德教育 |
| 目標 | 全教育活動を通して、人権意識を高め、心豊かでたくましく生きようとする道徳性を育成するとともに日常的な道徳的实践につなげる。 |
| 方策 | <ul style="list-style-type: none"> ・行事ごとに振り返りの場を設け、己を見つめ改善していこうという意識をもたせる。 ・自分で考えて行動を選択し、道徳実践に生かせるような手立てを施す。 ・友達の思いや考えを聞き、多様な考えに触れる場を設定する。 ・「人は、誰もがよりよくいきたいと願っている」という人間観にたち、人権意識を高められるよう、生徒に寄り添いながら指導を行う。 |
| | (7) 健康・安全指導 |
| 目標 | 自他の生命を尊重し、心身ともに健康で、安全な生活を送る態度を育成する。 |
| 方策 | <ul style="list-style-type: none"> ・様々な問題を抱えた生徒がいるので、一人一人の問題の背景を探り支援できるよう、関係者で連携し対応する体制作りに努める。 ・生徒自身が自分の生活を振り返り、健康課題を自覚することで、自分にとって健康な生活へ改善していけるような、気付きや手立てを工夫し、働きかける。 |
| | (8) 環境教育 |
| 目標 | 生徒たちが、学校生活の基礎である環境づくりに、清掃活動を通して取り組む態度を育成する。 |
| 方策 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校生活の中で身近な環境を清潔に保つために、興味、関心をもつよう全教員でよびかける。 ・清掃担当場所のみでなく、教師と生徒が共有する授業の開始に、身の周りの環境を整えさせてから授業に取り組ませる。 |
| | (9) 危機管理 |
| 目標 | <p>危機管理体制を強化し、自然災害や不審者侵入、問題行動、事故等の発生時には組織的で迅速・適切な対応を行う。</p> <p>様々な問題に対して、各教職員が意識して組織的な対応に努めているが、管理職への「報連相」が行われても、関係する職員の情報共有が十分にできていない場合がある。また、万が一の問題や事故等を想定した日頃からの生徒への指導や未然防止のための取組が十分とはいえない。</p> |
| 方策 | <ul style="list-style-type: none"> ・問題についての情報共有を図る際には、関係する職員に情報が行き渡るように、遅滞なく「報連相」を行う。 ・万が一のことを想定した指導や未然防止のための対応が日常から行えるように事後の考察や事例研修等を通して、職員個々の危機意識を高める。 |

| | |
|----|--|
| | (10) 学年運営 |
| 目標 | 学年主任のリーダーシップの下、学年スタッフが生徒一人一人の良さを伸ばし、可能性を広げるチームとなる運営に努める。 |
| | (10-1) 1 学年運営 |
| 目標 | 行動 ～高校生として新たな一歩を踏み出そう～ |
| 方策 | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の出席状況や学習状況等を把握し、一人一人との面談を活用しながら生徒と対話する。また、家庭との連携を密にする。 ・授業に集中して取り組めるよう、学習環境を整える。 ・休み時間等にこまめな巡視や見守りを行い、時間を守る意識付けをさせ、規範意識の向上を図る。 ・社会に出て働くことを意識させ、挨拶や言葉遣いを正しくさせる。 |
| | (10-2) 2 学年運営 |
| 目標 | 挑戦～目標に向かって積極的に行動しよう～ |
| 方策 | <ul style="list-style-type: none"> ・行事等に積極的に参加することで、仲間と協力する楽しさや意義を感じ、学級・学年の一員であると自覚させる。 ・日常生活を通して、社会生活に必要なマナー（あいさつ、時間、所作、言葉遣い、身だしなみ）を身につけさせ、礼儀や場に応じた話し方等の指導を行う。 ・生徒の状況を把握し、学習面や生活面で適切なサポートをする。 |
| | (10-3) 3 学年運営 |
| 目標 | 自律 ～自ら考え、自ら行動しよう～ |
| 方策 | <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活を通して、公私の別、社会生活に必要なマナー（あいさつ、時間、所作、言葉遣い、身だしなみ）を身につけさせ、礼儀や場に応じた話し方等の指導を行う。 ・日々の授業を大切にすることや、学習環境の整備も含め授業に臨む姿勢の指導を徹底する。 ・就職、進学とともに、一人一人に考える機会を与える。 |
| | (11) 生徒募集 |
| 目標 | 志願者、入学者の増員を図り、生徒数の増加を目指す。 |
| 方策 | <p>中学校訪問では、在校生の様子、本校の様子を伝えることで、多くの中学校の先生に本校の取り組みを知ってもらおう。</p> <p>学校見学、個別相談会について参加しやすい方法を検討し、ホームページへの情報提供、活用方法を改善していく。</p> <p>S N S (YouTube instagram) を活用し、本校の様子を積極的かつ即時的に外部に配信する。</p> |